

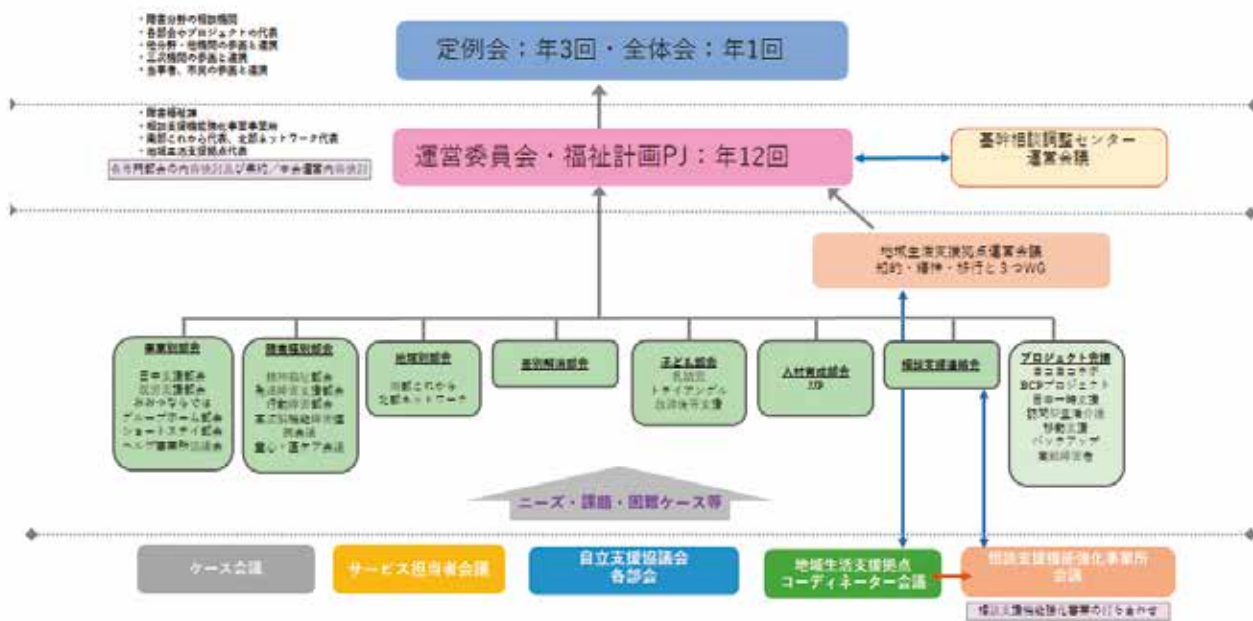
『福祉の魅力発見プロジェクト』の紹介

知的障害児者地域生活支援センター・生活支援センター 相談課長 松岡 啓太
(大津市自立支援協議会事務局)

全国の県や市町に設置されている障害者自立支援協議会は、平成7年に滋賀県の甲賀圏域に設置された「障害児・者サービス調整会議」がモデルとなっています。大津市では平成12年から地域の障害福祉に関わる様々な課題の共有と解決にむけた協議の場として「大津市障害者サービス調整会議」を設置していました。平成18年10月、障害者自立支援法によって市町村に障害者自立支援協議会の設置が制定されたのを機会に、その名称を「大津市障害者自立支援協議会」と改称して、協議会の事務局を生活支援センターが委託を受けることになりました。

大津市障害者自立支援協議会（以下、協議会と略します。）は「あるサービスは調整する、無いサービスは作る」をスローガンに一人一人から集約された福祉・保険・医療等に関わる諸課題を関係機関で共有を行い、課題解決に向けた調整ならびに、新たな社会資源の創造支援システムの構築、各種サービスの総合的な調整・連携強化による各施策の効果的な実施・推進を日々行っています。

【2023年度 大津市障害者自立支援協議会組織図】



今回は協議会の人材育成の取り組みの一つとして2021年度から始めた福祉の魅力発信プロジェクトの紹介をさせていただきます。

この取り組みは協議会の各会議で障害福祉の担い手不足の話題が頻回に出ていたことに対するアプローチとして企画しました。プロジェクトでは、障害福祉の仕事に対する学生のイメージ調査をまず行いました。

障害福祉のしごとが、福祉学生・非福祉学生から実際にどのようなイメージをもたれているのか就職に対してどんな意識を持っているかを把握するため、



事業所向け福祉の魅力に関する報告会資料（令和3年10月）

アンケート調査をおこないました。県内だけではなく、全国の学生から100件を超える回答がありました。人材確保が厳しいと思われると思うのですが、かなりの学生が、福祉を選択肢にもっている人も多かったです。「福祉の仕事には資格が必要」というイメージがあり、仕事がきついという固定化されたイメージもある。そして、約半数が「福祉職の給与等の待遇が極端に悪いと思っている」「キャリアアップのイメージもっていない」など、情報が正しく伝わっていないことがわかりました。



〈インタビュー〉他の人にもできて、私にしかできない

049

公開している当センター職員の記事

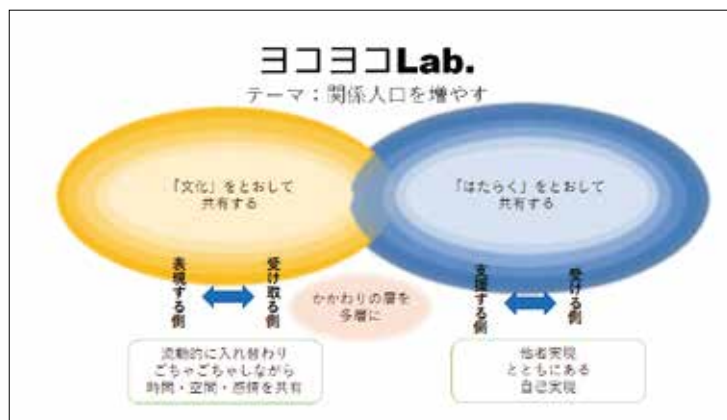
また、オンラインのメディアは関心のある人は見つけてくれるが、関心がない人には届かないので、「たまたま」出会い頭に会うような人たちに手に取ってもらうために、冊子も作成しました。

そして、今年度から更なる取り組みとして、「文化・芸術を通して関係人口を増やす」という取り組みもして行きたいと考えています。学生だけでなく、地域の様々な人たちの距離感を多様な関わりの層で広げていきたいと考えています。「障害者との共生は大切ですね。でも私の近くにはそういう人はいないので、あまり接点はないです。」という距離から、「私のお気に入りの手ぬぐいは障害のある人が作った物だった。」「カフェでランチをしていたら、ギャラリーの絵がとても良かった。作家さんが障害があるらしい。」「たまたまマルシェに参加したら手話歌がとても印象に残った。」など、日常の中に「関係人口を」ヨコヘヨコへと広げていきたいです。

続いて、魅力発信としてのヨコヨコというメディア「note」というメディアプラットフォームを利用し、福祉ではたらく人へのインタビュー等をととした魅力発信「ヨコヨコ」をはじめました。大津市内の障害福祉現場で働く人たちのインタビューを通して魅力発信に取り組んでいます。コンセプトとしては、「障害福祉の関係人口を増やす」ということを意識しています。「就職」という人生の大きな決断をいきなり迫るのはかなりハードルが高いため、ダイバーシティ&インクルージョンということに関心を持っている学生に「障害福祉」「障害者」を意識してもらい「関係人口」になってもらうことから始めることにしました。



学生向けに作成した「ヨコヨコ」の冊子



今後の取り組みのイメージ図

このプロジェクトでは福祉に関心を高めたり、福祉へのかかわりを増やしたり、福祉へのいろんなかかわりを拡大していく。そんな未来・社会づくりに取り組むことを大切にしたいと思っています。

noteの「ヨコヨコ」はこちらのQRコードからご覧いただけます。

